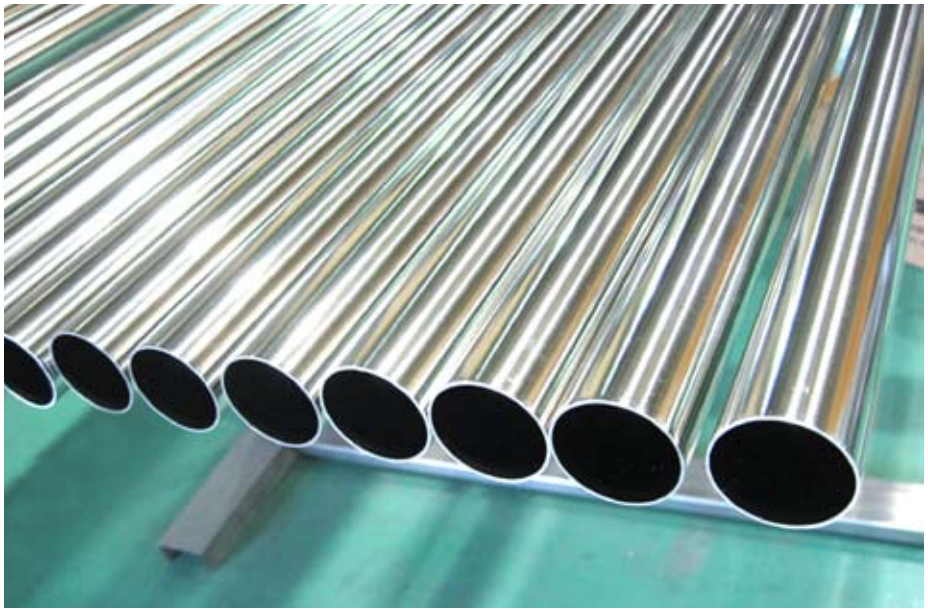
納期相談　企画力自信有　コスト相談　オンリーワン技術　メイドインジャパン　試作可小ロット　量産対応

協和ステンレス 株式会社

製管から電解まで一貫製造 JIS規格第1号認証を取得した ステンレス鋼サニタリー管



ステンレス鋼サニタリーパイプ

商社から一念発起して 独自技術を誇るメーカーに

食品や医薬品、重化学分野など、あらゆる製造現場で用いられる継手やバルブの製造・加工・販売で各方面から高い信頼を得ているのが、協和ステンレスだ。

創業から30年あまりの時を経て、業界屈指の技術力を誇るメーカーとして広く知られているが、その歩みは現社長・抽冬正二さんが一人で運営する『協和ステンレス商会』から始まった。抽冬社長は、創業当時を振り返ってこう語る。「創業当時は資金もなかったので、製造ではなく商社的な事業に専念していたんですよ。事業自体は順風満帆だったのですが、ある時知り合った上場企業の社長から、こんなことを言われたんです。『ただ右から左へ商品を流しているような会社とは、ウチはお取引きできません』と。その一言を聞いて、男としてやっぱりメラメラと燃えるものがあってね」。メーカーになろうと一念発起した抽冬社長は、3年ほど勤めていた鉄工所での経験をベースに、ほぼ独学で継手やバルブの製造方法を習得。常に移り変わる時代のニーズを的確にとらえ、1986年に『協和ステンレス株式会社』を設立した。

サニタリー継手

電解研磨でも パッキン面が梨地にならない 「クリーンヘルール」

同社を代表する製品のひとつが、JIS規格における国内第1号認証を取得した『ステンレス鋼サニタリー管』だ。製管から研磨、洗浄、電解といった一貫製造の工程を自社内で構築し、顧客からの細かな要望にも対応している。特に製管設備については、本来オフラインであった複数工程を約30mのチューブミルにインライン化することで、生産効率の向上と製品の安定化を実現するなど、同社のこだわりと工夫が顕著に現れている工程だ。

フレア加工によるパッキン面の品質改善をはかったのが、本社工場に程近いテクノ工場で製造される『クリーンヘルール』。接合面が電解研磨で梨地（ざらざらになること）にならない画期的な製品だ。福岡県太宰府にある九州工場には大型タンクの製造拠点を設けており、プラントをトータルで提供できるシステムも構築している同社。「経営者として売り上げなど数字面を意識することは忘れませんが、『当社の製品を入れて良かった』と顧客に思っていただけることが何よりうれしいんです。一社でも多くの顧客からそう言っていただけるよう、これからも社員一丸となって頑張りますよ」と抽冬社長。本格的な海外展開も視野に、同社は今後さらなる高みをめざす。

Company Profile

協和ステンレス株式会社

ISO 9001　大阪22

住　所　〒594-1144
　　和泉市テクノステージ3-7-5
ＴＥＬ　0725-53-0188
ＦＡＸ　0725-53-0387
設　立　昭和61年5月
資本金　2,000万円
従業員　83名
代表取締役　抽冬 正二

■主な事業内容
ステンレス鋼サニタリー管および継手・バルブ・ポンプ機器の製造・販売

■主な取引先
製造装置製造・販売メーカー、医療機器メーカー 等

http://www.kyowa-stainless.co.jp

他社には負けない　当社のものづくりセールスポイント

タイの販売拠点をベースに さらなる海外進出にも注力

代表取締役　抽冬 正二 さん

2009年、タイに販売拠点を設立。その成功を足がかりに近い将来にはインドネシアへの進出を予定しています。国内で培ってきた独自の技術をベースに海外進出を本格化させ、日本人であることを誇りにアグレッシブな事業を展開していきます。